

平成24年11月27日発行

北海道国際理解教育研究協議会

会長 中村 淳
事務局長 古里 和雄

会報 第83号

十勝・帯広大会は晴天なり

十勝・帯広大会実行委員長

笹木 卓三

(十勝地区国際理解教育研究会会長)

10月26日(金)、十勝晴れの下、帯広市立啓北小学校と帯広第一中学校を会場に7本の授業を公開し、その後、とちプラザで全体会、授業分科会、課題別分科会を行いました。この大会の取組をとおして、私たちは国際理解教育の確かな仕事(ワーク)ができたと思っています。

大会の感想と感謝を次の3つの「ワーク」に集約し、述べさせていただきます。

1. ネットワーク

北海道国際理解教育研究協議会は、道内各地区の研究団体から構成されています。中村淳会長をトップに、私たちは国際理解教育の崇高な理念の下、つながり方は様々ですが、ネットワークをつくるのが上手な人間の集まりだと思います。今回も、参加者不足を心配しましたが、様々な呼びかけをしていただき、最終的に230人もの参加者を集めることができました。

今回の授業も提言も、私たちの確かなネットワークをとおして、全道の子どもたちに染み込んでいくことを期待します。

2. フットワーク

研究会当日、私の歩数計は1万5千歩を記録しました。じっとしていることが苦手なのと、全ての授業、全ての分科会を掌握したかったからです。おそらく野中利晃事務局長は、2万歩を超えていたことでしょう。

十勝・帯広大会の指導案検討にも2次案内発送にも、多くの会員が集まりました。十勝管内はとてども広く、研究大会準備への会員のフットワークには本当に頭が下がる思いです。デジタル通信の時代ではありますが、皆が足を運び、顔を合わせて話したり作業したことで、研究大会の機運は確実に高まりました。足で稼いだ授業であり、大会運営だったと思います。

3. わくワーク

国際理解教育には、決まった教育課程が用意されていません。世界と子どもたちの「出会いを創造」することは、私たちの「わくわく感」を満たしてくれます。国際理解教育の可能性を更に膨らますことができたとしたら、十勝・帯広大会は大成功です。

未来は見えません。だからこそ、楽しみなのです。次年度は釧路大会で、どんな授業や提言に出会うことができるのでしょうか。そんな「わくワーク」は、まだまだ続きそうです。

十勝・帯広大会は晴天に恵まれたことが何よりも幸運でした。空は、世界中につながっていますから、世界に思いをめぐらせるのにふさわしい天気になったことを嬉しく思います。

この大会のためにご協力いただきました全ての皆様に心からお礼申し上げます。

理事会総会・研修会

第22回全国海外子女教育・国際理解教育権協議会北海道ブロック大会、第33回北海道国際理解教育研究大会 十勝・帯広大会に先立ち、平成24年度の理事会総会と研修会が開催されました。

【会次第】

1. 開会の言葉 副会長 冷川 元彦 (石狩地区会長)
2. 会長挨拶 会 長 中村 淳
3. 自己紹介 (理事・事務局員)
4. 平成24年度事業計画 各担当者
 研究・事務局・庶務・広報・会計・組織
 ※研究部は、研究の説明・報告の後、別室にて研究協議を行う。
5. 説明報告事項
 - (1) 平成24年度 役員・事務局員・地区役員について 古里 事務局長
 - (2) 第33回北海道国際理解教育研究大会 十勝・帯広大会について
 ・平成24年10月25日(木)・26日(金) 十勝・帯広大会実行委員長
笹木 卓三
 - (3) 今後の大会開催予定地

1 十勝	2 檜山	3 札幌	4 後志	5 札幌	6 胆振	7 札幌
8 上川	9 渡島	10 札幌	11 網走	12 十勝	13 檜山	14 釧路
15 石狩	16 旭川	17 札幌	18 釧路	19 後志	20 北見	21 胆振・室蘭

 - ・平成25年度 第34回大会 釧路地区 開催決定 (第10次研究 まとめ)
 - ・平成26年度 第35回大会 札幌地区 開催決定 (第11次研究 初年度)
 - ・平成27年度 第36回大会 石狩地区 開催決定 (第11次研究 2年次)
 - ・平成28年度 第37回大会 胆振地区 開催決定 (第11次研究 まとめ)
7. 審議事項
 - (1) 平成24年度「派遣教員研修会・帰国教員報告会」の開催について 類家 事務局次長
 - ・平成25年1月8日(火) 札幌にて開催予定
 - ・開催に伴う各地区の協力体制支援についてお願い
 - (2) 事務局運営金の予備費の扱いについて
 ・予備費については、特別会計を新設し、これからの大会基金とする。
 - (3) 地区組織について
 ・小樽、日高地区のバックアップ体制については、1月まで検討課題とする。
 - (4) 全海研「素材の教材化プロジェクト」について
 ・趣旨を踏まえ、協力をしていく。
 - (5) 会則の一部変更について
 - ・名称の変更 「網走」→「オホーツク」
 - ・細則2を削除
 - ・細則4は、「入会を希望するものは、各地区事務局に申し出る」
 - ・細則5は、「大会を希望するものは、各地区事務局に申し出る」
8. 次期大会開催地会長挨拶 川口 主紀 (釧路地区会長)
9. 連絡・その他
 - ・全海研会費及び事務局運営金納入のお願い 事務局長
 - ・シニア派遣について
10. 閉会の言葉 上野 和幸 (上川地区会長)

授業公開と授業別分科会記録

【小学校部会 公開授業・授業別分科会】

小学校2年生

道徳 単元名「あたたかくなることば」

◁児童

帯広市立啓北小学校

2年2組 35名

◁授業者

帯広市立啓北小学校

教諭 小林 香織

◁運営・司会者

音更町立共栄中学校

教頭 伊藤 道彦

◁助言者

釧路教育局義務教育指導班

指導主事 富田 直樹

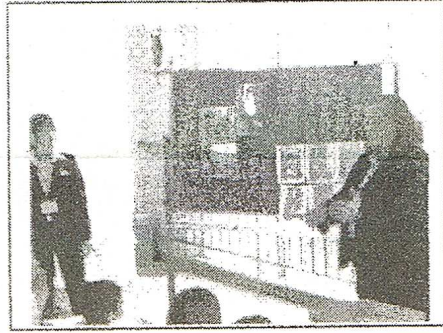
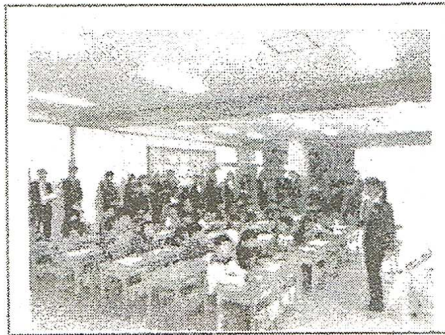
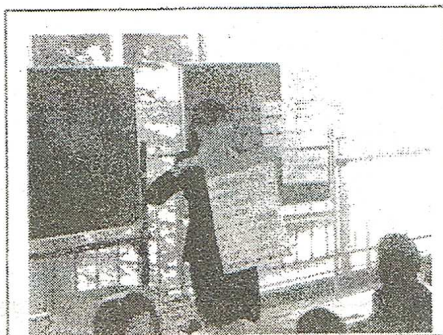
◁記録者

帯広市立豊成小学校

校長 久永 恵子

帯広市立豊成小学校

教諭 斎藤 隆広



【授業の様子】

自分たちの生活体験、道徳の副読本教材『あたたかくなることば』にある、あいさつのあたたかさに触れていく中で、自分たちがうれしいと感じる時、心があたたかくなる時について交流した。その後、学級に入っているALTの山田ミキ先生から、アメリカのあいさつについて学び、日本と同様にあいさつの大切さについて学んだ。実際の海外在住経験者の言葉で、子供たちの目の輝きが増し、実際の生活改善に活かそうとしている姿が印象的であった。

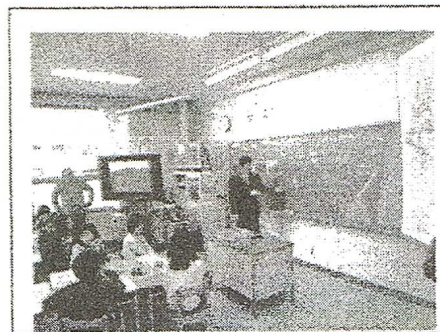
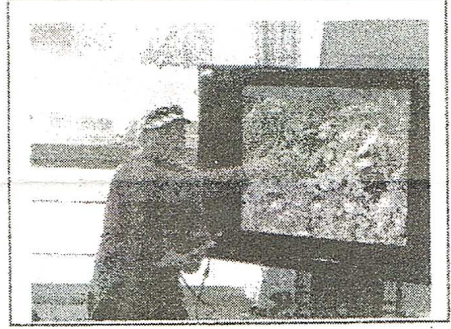
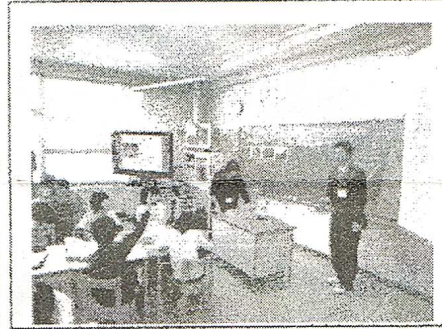
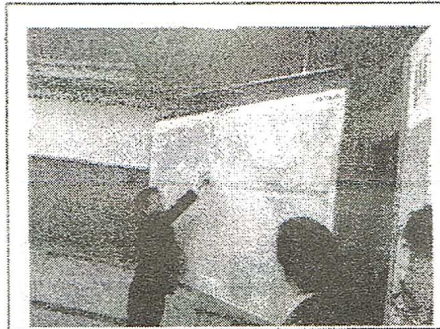
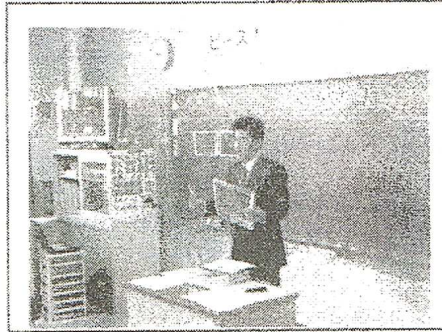
授業公開と授業別分科会記録

【小学校部会 公開授業・授業別分科会】 小学校4年生 新地球学 単元名「鹿追の自然を学ぼう」

◇児童
◇授業者
◇運営・司会者
◇助言者
◇記録者

鹿追町立鹿追小学校
鹿追町立鹿追小学校
音更町立共栄中学校
釧路教育局義務教育指導班
帯広市立豊成小学校
帯広市立豊成小学校

4年1組 21名
教諭 西保 雄介
教頭 伊藤 道彦
指導主事 富田 直樹
校長 久永 恵子
教諭 齋藤 隆広



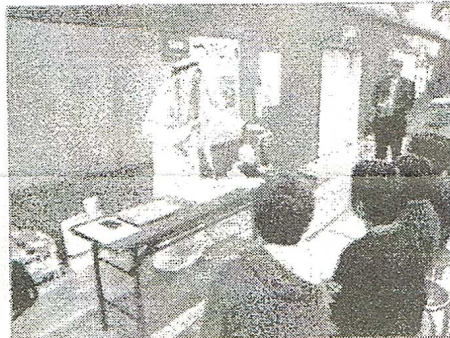
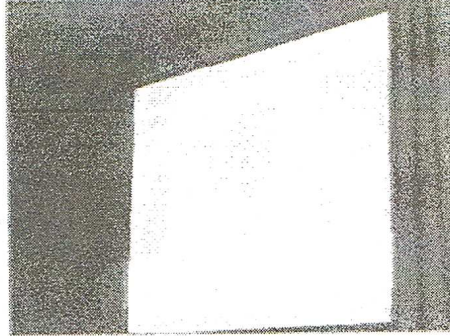
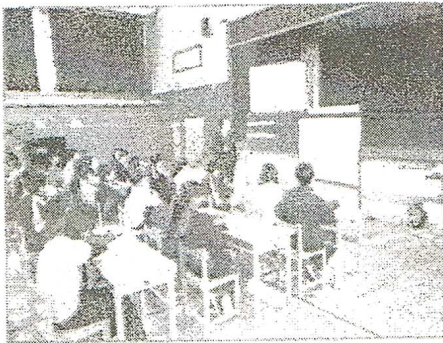
【授業の様子】

文部科学省研究開発指定による新設教科「新地球学」による公開であった。過去に調査活動を行った然別湖に生息するナキウサギを通して、同じく生息するカナダとの標高の差や同じような環境について考えていった。視覚教材、視聴覚教材を有効に用いる手立て、ゲストティーチャー（然別湖ネイチャーセンター員）の話等、子どもたちの興味・関心を十分に引き出すことができていた。子どもたち同士の話し合い活動も活発化しており、活気に満ちた授業であった。

授業公開と授業別分科会記録

【小学校部会 公開授業・授業別分科会】 小学校5年生 社会科 単元名「これからの食料生産」

◎児童	帯広市立啓北小学校	5年1組	35名
◎授業者	帯広市立啓北小学校	教諭	永井 悠介
◎運営・司会者	中札内村立中札内小学校	教諭	石塚 英一
◎助言者	十勝教育局義務教育指導班	指導主事	森島 克久
	帯広市教育委員会学校教育指導室	指導主事	西田 健一
◎記録者	帯広市立北栄小学校	教諭	佐藤 紀子



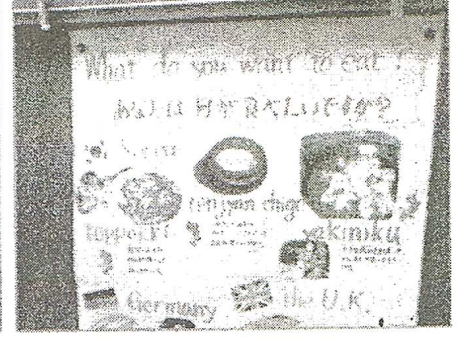
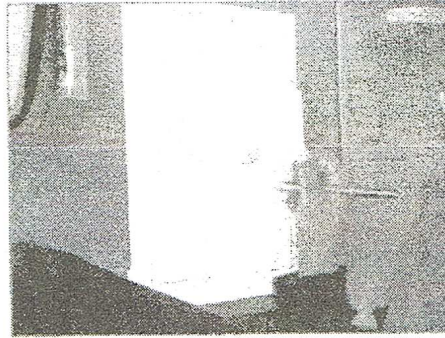
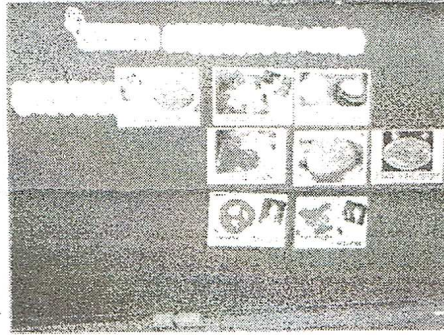
【授業の様子】

授業の冒頭では、SKYPE を使ったリアルタイム交信をジェッタ日本人学校の森田教諭と行った。画像と共に紹介された現地での生活の様子もさることながら、窓の外が暗い様子を見て、日本と外国との違いを実感していた。外国の食料生産について調べようという目的をもった子どもたちは、在外教育施設派遣の教員たちが各国を紹介するブースへ移動。各ブースでは、映像や実物を使いながら、生の情報に触れることができた。子どもたちは、外国の食料事情を知ることによって、日本との違いに目が向き、国内の食料生産について調べたいと意欲を高めていた。

授業公開と授業別分科会記録

【小学校部会 公開授業・授業別分科会】

小学校6年生	外国語活動 单元名「Lesson5 Let's go to Italy」	6年1組 30名
児童	帯広市立大正小学校	教諭 磯谷 麻江
授業者	帯広市立大正小学校	教諭 石塚 英一
運営・司会者	中札内村立中札内小学校	指導主事 森島 克久
助言者	十勝教育局義務教育指導班	指導主事 西田 健一
	帯広市教育委員会学校教育指導室	教諭 佐藤 紀子
記録者	帯広市立北栄小学校	



【授業の様子】

イギリス、韓国、ドイツ、オーストラリアの有名な料理を知る活動から授業が始まった。担任が自らの経験を交えながら紹介したことで、子どもは、自分だったら〇〇が食べたいな、という意欲をもっていた。そこで、ゲームを通して「What do you want to eat?」という表現に慣れ親しむ活動を行った。次に、子ども同士で英語でかわり合う活動を行った。そこでは、「What do you want to eat?」「I want to eat Scone!」と、たくさんの友達に積極的に話しかける子どもの姿が見られた。活動後のふりかえりでは、円滑に会話ができたと互いに価値付け合う姿が見られた。

授業公開と授業別分科会記録

【中学校部会 公開授業・授業別分科会】

中学校1年生

学級活動 単元名「学級スローガンをつくろう」

児童

授業者

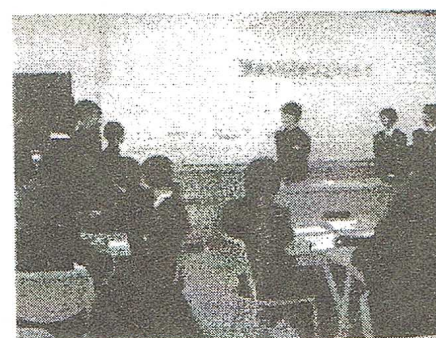
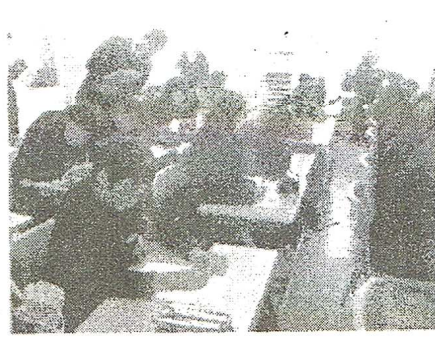
運営・司会者

助言者

記録者

中札内村立中札内中学校
 中札内村立中札内中学校
 浦幌町立上浦幌中央小学校
 学校教育局義務教育指導班
 帯広市立森の里小学校
 音更町立西中音更小学校

1年A組 39名
 教諭 高嶋 幸太
 教諭 小室 彰人
 指導主事 堀田 裕之
 校長 西保 俊太郎
 教諭 牧 伊津子



【授業の様子】

この単元では、文化祭も終えたこの時期に、半年間の自分たちの生活を振り返り、これからの目標をしっかりと取り組むことをねらいとした。そこで、始めにエルマ市からの交換留学生とのふれ合いの様子を振り返り、3名の留学生からの手紙を読んで聴かせた。生徒は、恥ずかしそうにしながらも様子を観察し、自分たちに不足していることに気付くことができた。その後、グループごとに自分たちでスローガンを作り、全体交流では、それらを基に学級スローガンを創り上げた。

分科会では、これまでの国際理解の活動や他教科でのペア学習の成果、これからの課題について各学校の状況を交流することができた。

授業公開と授業別分科会記録

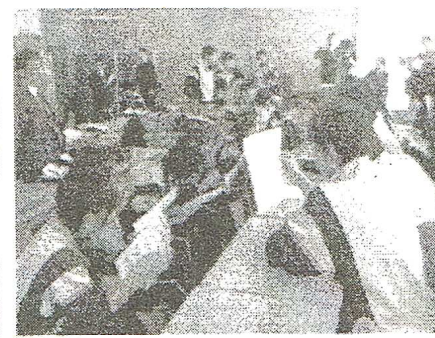
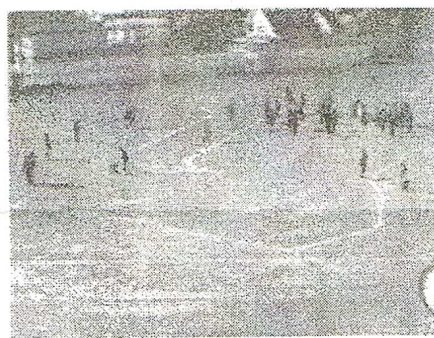
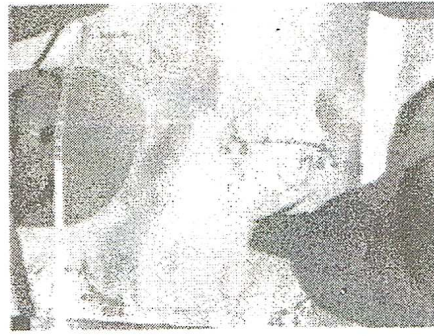
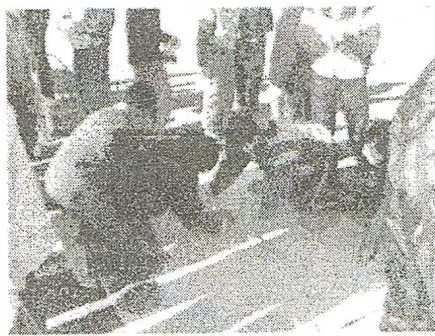
【中学校部会
中学校3年生

- ◇児童
- ◇授業者
- ◇運営・司会者
- ◇助言者
- ◇記録者

公開授業・授業別分科会
数学科 単元名「相似な図形」

帯広市立帯広第一中学校
帯広市立帯広第一中学校
帯広市立帯広第四中学校
石狩教育局義務教育指導班
豊頃町立豊頃小学校
帯広市立清川中学校

3年1組 35名
教諭 益子 忠行
教諭 金元 弘子
指導主事 田中 孝二
校長 梶原 源基
教諭 山崎 慶太



【授業の様子】

この単元では、相似な図形の基本的な内容をとらえた後の発展的な学習として、「ナスカの地上絵」を描く活動を基に当時の人々へ想いを馳せることで世界に触れ・考えることをねらっていた。生徒は、4グループに別れ、相似な図形の描き方を活用しながら「宇宙人」の図柄を完成させた。その後、教室では、「どうして、このようなものを」という問いかけに、当時の人々の生活や文化を想像しながら「〇〇説」を創り出し、発表することができた。最後に、自分たちの作った地上絵を教室から見た際には、大きな歓声が沸き起こっていた。

分科会では、相似の学習とのつながりやピラミッドなど三平方の定理を活用した素材の在り方についての話題が出るなど盛り上がっていた。

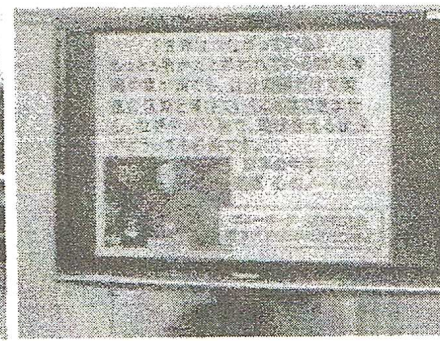
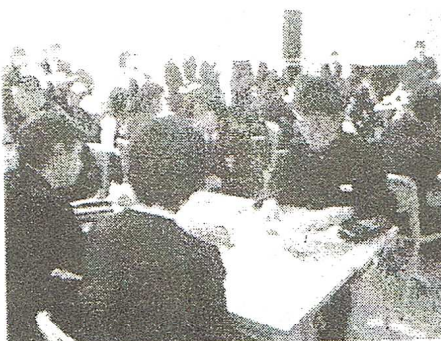
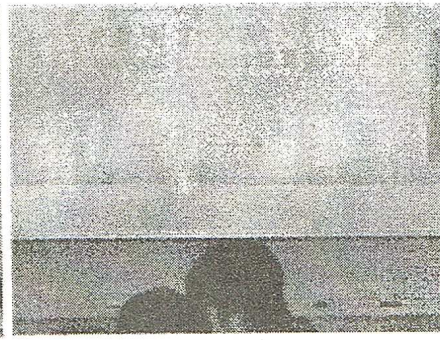
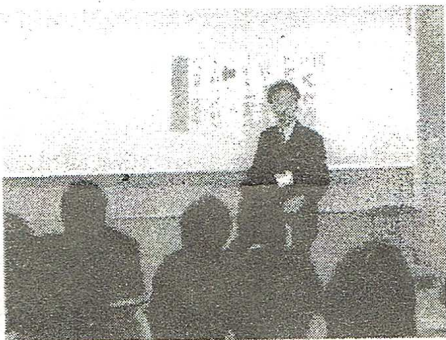
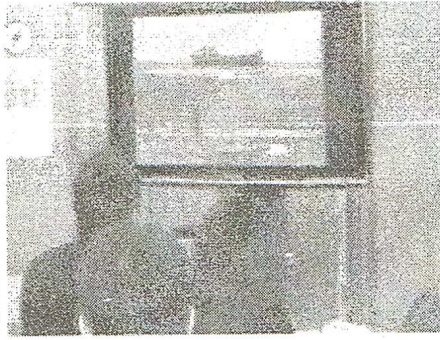
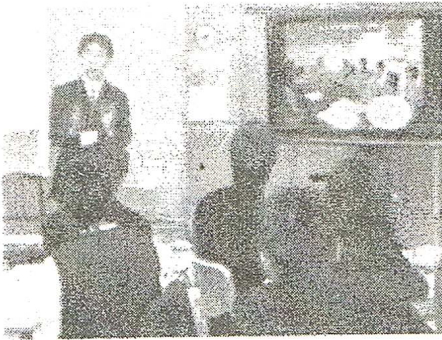
授業公開と授業別分科会記録

【中学校部会 公開授業・授業別分科会】 中学校3年生 道徳 単元名「世界とのつながり」

児童
授業者
運営・司会者
助言者
記録者

幕別町立札内中学校
幕別町立札内中学校
浦幌町立上浦幌中央小学校
学校教育局義務教育指導班
帯広市立森の里小学校
音更町立西中音更小学校

3年B組 38名
教諭 多田 明寿
教諭 小室 彰人
指導主事 堀田 裕之
校長 西保 俊太郎
教諭 牧 伊津子



【授業の様子】

この単元では、JICA 北海道のスタディツアーを活用し、訪問したウズベキスタンのアラル海を素材に世界とのつながりを考え、行動化する心を育てることをねらいとした。始めにウズベキスタンの様子を映像で見せ、環境と経済の利点・問題点に気付かせ、その中でどうしていくことが良いのかを考えさせた。生徒は、それぞれの立場を考えながら、自分ごととして問題を解決しようとしていた。また、その後の心のノートを活用した緒方さんの話では、見てきた資料等を生かしながら根拠を話していました。

分科会では、内面の葛藤を生む場面の揺さぶり方について、いろいろな意見が出される等活発な議論がなされました。

【第1分科会

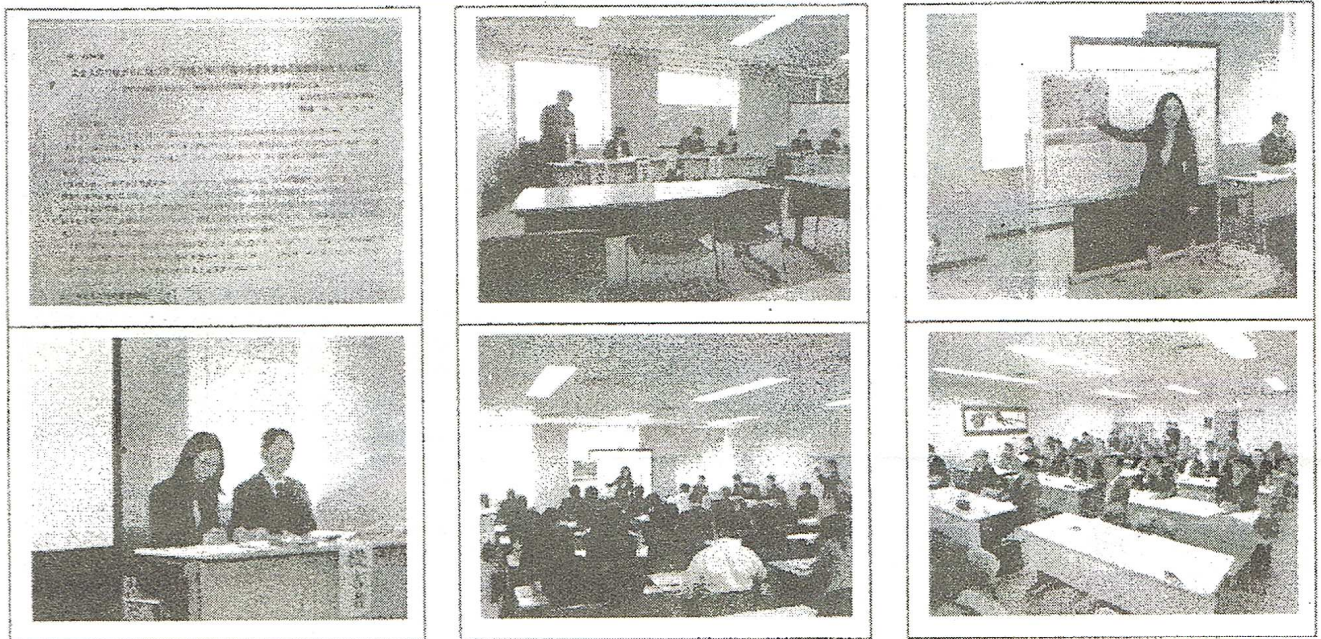
地球からの発信、仲間と共に行動する姿を求める国際理解教育の実践】

◇運営者	美幌町立美幌小学校	教諭	柏馬 一之
◇司会者	札幌市立緑丘小学校	教諭	岩村 鏡介
◇助言者	十勝教育局義務教育指導班	指導主事	森島 克久
	白糠町率麻路小学校	校長	川口 圭紀
◇記録者	登別市立登別小学校	教諭	寺沢 圭司

① 「人と人のつながりに気づき、仲間とともに行動する姿を求める国際理解教育の実践」

石狩市立花川南小学校 教諭 水永 えり

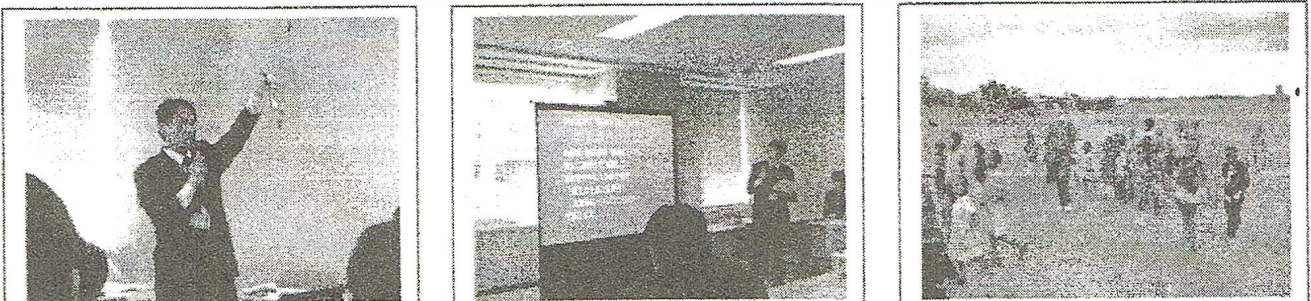
東日本大震災で被害を受けた地域を訪問した際、実際の被害の様子を目の当たりにした経験と、復興に向かう人々の様子、そして海外からの支援等を絡ませ、人々の絆について考えさせる小学校2年生へむけての教材化の発表。



② 自分と地球をつなぎ、未来を切り拓く児童生徒の育成

根室市立光洋中学校 教頭 飯田 雄士

ナイロビ日本人学校から帰国後、能動的に取り組む姿が見られない赴任校にて行った、「模擬経済活動」を通して、自分たちで仕事を生み出す喜びを創り出すと同時に、それらの活動が直接ケニアの難民地域の給食支援につながってゆく、素晴らしい活動についての発表。



2008年6月 根津中2学年への

緊急指令!

この標津を、活気がある
住みやすい町にするために、
自分たちの手で労働を創り出し、
お金を稼ぐことが出来る
起業プランを作成せよ!

標津中学校ビジネス実践 総合36時間扱い

実践校
2学期 総合36時間扱い 総合36時間扱い
4学期 総合36時間扱い 総合36時間扱い
4学期 総合36時間扱い 総合36時間扱い

実践校
2学期 総合36時間扱い 総合36時間扱い
4学期 総合36時間扱い 総合36時間扱い
4学期 総合36時間扱い 総合36時間扱い

実践校
2学期 総合36時間扱い 総合36時間扱い
4学期 総合36時間扱い 総合36時間扱い
4学期 総合36時間扱い 総合36時間扱い

アサヒ株式会社

●ケニアの身体障害者が作った物をフェアトレード
●映画上映や募金で集まったお金をスラムの小学校の給食支援に

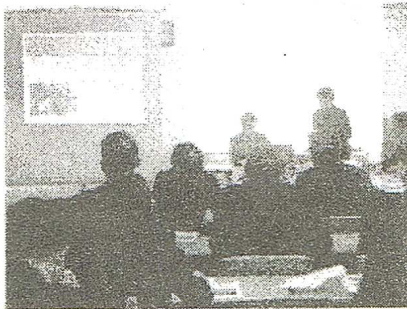
【第2分科会

国際交流や国際協力を通じた国際理解教育の実践】

◇運営者	帯広市立栄小学校	教諭	畑中 美佳
◇司会者	白糠町立白糠中学校	教頭	川島 眞澄
◇助言者	石狩教育局義務教育指導班	指導主事	田中 孝二
	仁木町立仁木中学校	校長	橋本 直樹
◇記録者	美深町立仁宇布小学校	教頭	中間 靖之

①「飛んでけ！車いす」の活動を通して

偶知安町立西小学校樺山分校 教諭 菅原 美和子
 NPO 法人「飛んでけ、車いす」の活動（整備された車いすを個人旅行の手荷物として諸外国に持ち出し、寄付してくる）を紹介していくことで、子どもたちの視野を広げ、身近な活動へと行動化を促す活動の実践発表。



車いすの選搬について

旅行の決定『会』に連絡し、情報収集

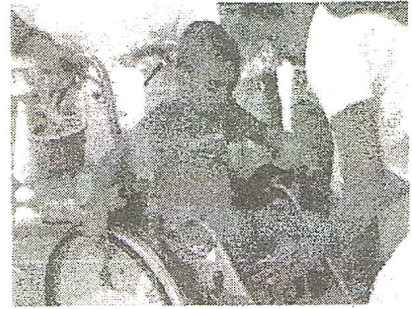
出発6週間前までどんな人に、どの車いすを選ぶのかを決定

出発当日 国内空港にて車いすの受け取り

出発空港 自分の荷物として預ける

到着空港 車いすの受け取り

現地 受入施設に連絡し、運ぶ



樺山分校の取り組み

車いすを運ぶための活動の様子を紹介

児童会活動の一環としてリンダルの印刷

異文化理解の観点からも取り組む外国語活動

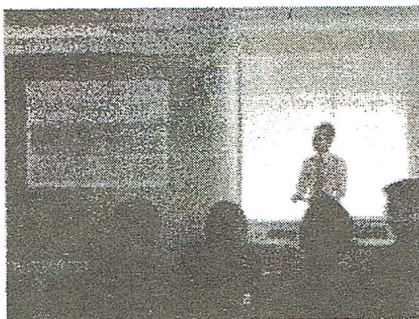
だれでもできる国際協力！

先上支援...

- ・フォスター ベアレント
- ・ガルーニ基金
- ・ユニセフ基金
- ・ユニセフ子ども援助
- ・パルティアボランティア

②「食」を通して世界とつながる国際理解教育の実践

八雲町立野田生中学校 教諭 谷内 雄樹
 JICA 国際協力出前講座を活用し、いろいろな国の食卓を見ながらその特徴に気付かせる。その中で、食事の食べ方に焦点を当て、実際にネパール料理を作る体験から食事の体験を通して道具の特徴について考える実践の発表。



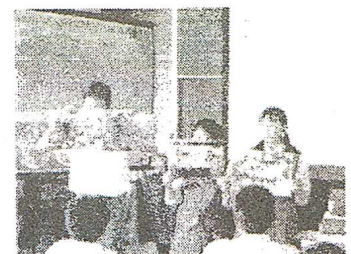
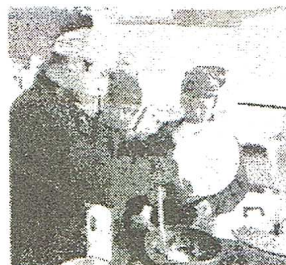
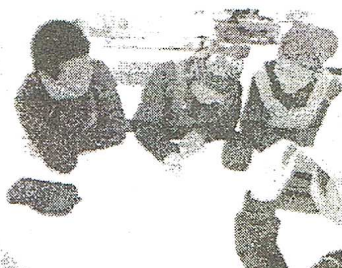
いつもと違う食べ方

- 「ごはん」を「手」で食べたら、
- 「うどん」を「スプーン」で食べたら、
- 「おにぎり」を「フォーク」で食べたら、
- 「ハンバーガー」を「フォーク」で食べたら、
- 「ステーキ」を「スプーン」で食べたら、
- 「カレーライス」を「手」で食べたら、

もし知らない村に招待されて...



カレーにスプーンがなかったら...



【第3分科会】

外国語活動を通じたコミュニケーション能力をはぐくむ国際理解教育の実践

◇運営者	美瑛町立美進小学校	教諭	堀内 隆功
◇司会者	厚沢部町立厚沢部小学校	教頭	久慈 学
◇助言者	学校教育局義務教育指導班	指導主事	堀田 裕之
	札幌市立百合が原小学校	校長	継田 昌博
◇記録者	釧路市立朝陽小学校	教諭	菊池 杏子

① 「外国語活動小中学校合同情報交流会について」

函館市立高盛小学校 教諭 三浦 将大

小学校外国語活動全面実施後も続く、指導者側の悩み。校内での研修だけでなく、他の小学校との連携、さらには中学校との連携も行い、教員同士のレベルで意見を交流する研修を実施。縦、横のつながりを強化することで、全市的なボトムアップを図った実践事例を発表。



はじめに1

■外国語活動についての会員の声より

- 小学校教諭から
 - ※十分な研修を受けないまま指導している、窮んでいる。
 - ※他の学校では、どのように指導しているのか、情報を知らない。
 - ※『英語ノート』と『Hi, friends!』とは違うの、
 - ※『Hi, friends!』と『英語ノート』のように活用しているのを知りたい。

はじめに2

■外国語活動についての会員の声より

- 中学校教諭から
 - ※英語でのあいさつの指導が徹底されている。
 - ※入門書の導入がスムーズに行えるようになった。
 - ※着付け、スポンサー、基本的な語の発音が気楽にできるよう。
 - ※1年生から英語に対して苦手意識をもつ生徒が出てきている。

交流会の概要3

■日常の指導の悩みや工夫についての交流

- 外国語活動の指導の悩みから、
 - 自分の得意な点、得意な教材を、
 - よくない点、改善したい点について、
- イメージがわからない
- 英語活動のスタートの打ち合わせ時間から、
 - 教材の準備時間から、
 - マンツーマン教材がうまく使えない。

交流会の概要4

■中学校の指導の実際についての交流

- 理解に促している。
- 外国人との接し方に今まで以上に慣れている。
- コミュニケーションをとろうとしてくれている。
- 知っている、習った、自信、わかる、できる感。
- 中学校の英語教育の発着に対して気持がよい。
- 知っている単語が多い。
- （英・日・曜日・天気・季節・色・スポーツ）
- 発音の速いに違和感がない。
- 発音よりもアクセントを！

成果と今後に向けて

■今後に向けて

- 外国語活動に対する不安の解消のさらなる解決
- より日常の授業にマッチした指導実践。
- 1時間の授業の交代、教材・教員のアイデアの展開
- 国際理解教育研究会の会務へ
- 12月に授業参観を予定
- 来年度、中学校から外国語活動の指導者3名提案

② 『Hi, friends!』を活用した外国語活動の実践

岩見沢市立第二小学校 教諭 高砂 俊克

従来の『英語ノート』や、新教材『Hi, friends!』を積極的に活用しながら、外国語活動の3つの柱にそって、コミュニケーション能力の素地を養う活動の充実を図る。指導の効率化を図るためには、教材の中の各単元におけるねらいを明確にした教材研究を行う必要があることを提言。

